

Book Review

災害歯科医学

槻木恵一・中久木康一 編



Reviewer

武井典子 Noriko Takei
(公益社団法人日本歯科衛生士会 会長)

B5判, 138頁
定価(本体7,200円+税)
医歯薬出版刊



2011年の東日本大震災は、岩手県、宮城県、福島県を中心に甚大な被害をもたらし、7年が経過した現在も、いまだ復興が進まない被災地の状況が報道されています。そうしたなか、2016年4月に熊本地震、さらに同年10月には鳥取県中部地震が発災、立て続けに発生する地震の経験を通し、災害はいつでもどこで起きるかわからないこと、それゆえ平時からの災害への備えがきわめて重要であることを学びました。

こうした経験から日本歯科衛生士会も「災害支援活動歯科衛生士実践マニュアル」を作成、災害支援現場での活用を通して内容の強化を図って参りました。しかし多くの場合、マニュアルは被災地への災害支援派遣が決定した後に活用されるのが現状でした。そうした現実を踏まえ、毎年実施する「災害支援歯科衛生士フォーラム」では、「都道府県歯科衛生士会における災害支援活動リーダーの育成」を目標と定め、内容の充実を図るとともに、フォーラム出席後は「災害支援活動歯科衛生士実践マニュアル」を活用した

各県での伝達講習の実施を依頼してきました。さらに、熊本地震でブロック内の歯科医師会と歯科衛生士会の協力支援体制が重要であった経験に鑑み、ブロック別に「災害歯科衛生士フォーラム」を毎年開催して、ネットワークの強化に努めております。

今後は、これまで災害支援について学ぶ機会がなかった歯科衛生士に対し、各都道府県で災害支援活動に対する実践研修を充実することが課題と考えます。また、災害の種類、時期等により支援内容は異なりますが、歯科保健医療体制における歯科衛生士の役割の理解、災害関連死のなかで大きな割合を占める肺炎を早期から予防するための歯科衛生士の専門性の確立、平時からの歯科医師会さらには多職種の皆様との連携強化を推進して参りたいと思います。近年の超高齢社会の進展に伴い、地域包括ケアシステムの構築が急がれており、地域で多職種連携が推進されるなかで、災害支援活動についても平時から連携が推進されることが望ましいと考えています。

さて、こうした状況のなか、日本で

初めて教科書として「災害歯科医学」が発刊されたことは誠に時宜を得ており、当該分野のこれまでの取り組みを大きく進展させるためにも、歯科衛生士の養成課程において積極的に活用していただきたいと考えます。本書は学生が災害に関する全体像を学習し、そのなかで歯科保健医療や災害時の歯科治療、歯科保健を学べる構成となっています。さらに後半では、災害支援の事例からチーム医療の在り方を学ぶことができ、また「付」として災害の経験を多数紹介、災害経験のない学生にとっても災害の恐ろしさと平時からの備えの重要性を理解できると考えます。

また、本書は都道府県歯科衛生士会の研修会のテキストとしても、災害を体系的に学べる一冊であり、正に歯科医療関係者にとって必読の書と考えます。もちろん、震災現場で本書を活用する現実がないことを願う一方、本書が歯科医療の専門家にとっての平時における備えとして、広く普及することを願ってやみません。